



自主企画Ⅱ（事例検討）

会場：224会議室

社団法人 日本精神保健福祉士協会権利擁護委員会 共同企画

生活支援のための法律相談 ～地域生活を充実させるために～

講師：熊田 均 弁護士（愛知県弁護士会）
 矢野和雄 弁護士（愛知県弁護士会）
 コーディネーター：大曾根 寛 氏（放送大学）
 岩崎 香 氏（権利擁護委員会委員長・順天堂大学）

このところ高齢者や障害者をめぐった相続上の不利益、財産・金銭のごまかし、不当な契約による精神的・経済的な損害、当然受けることのできる利益を受けられないで放置される不利益などの報道を目にしたり、耳にすることが多くなった。今までは、家族や親族・地域・病院などが包括的に保護してきた障害者の利益を、障害者自身が守っていかなければならない世の中になってきたからか？支援なき障害者の生活は、あらゆる場面でトラブルが発生する可能性がある。障害者の自立には、生活支援とともに、障害者の生活を取りまく法律の仕組みについての知識が欠かせない。実際に起きている問題を取り上げ、対処方法を検討していく。

14:30～14:40 オリエンテーション
 14:40～16:00 『財産に関する』事例検討
 16:10～17:30 『生活に関する』事例検討
 17:30～17:45 まとめ

自主企画Ⅲ（ワークショップ）

会場：222 / 223 会議室

ソーシャルワーカーの記録

講師：大谷京子 氏（日本福祉大学）

我々ソーシャルワーカーが毎日行なう業務の一つに「記録を残すこと」がある。しかし、その様式・方法に定まったものはなく、また専門教育の過程においても記録について十分に取り上げられていないのが現状である。そこで、ソーシャルワーカーの記録について、何のために記録するのか、何を記録するのか、どのように記録するのかをポイントに、5年未満のソーシャルワーカーを対象としたワークショップを開催する。記録について学ぶことは、福祉を再確認して我々の業務を見直すことにつながると同時に、我々の実践を実証的に検証し、さらなる発展をめざすことができると考えられる。

対象：5年未満のソーシャルワーカー
 定員：約50名
 内容：講義と演習（記録の目的・種類に関する講義、面接のロールプレイを見て実際に記録するなどの演習を行なう。また、参加者の意見をもとに記録を書くための工夫を導き出す。）